

ニュージーランド 南島で赤肉キウイの栽培が可能に

FreshPlaza 2023年8月29日

バイオセキュリティの取組により、南島の生産者に新しいキウイフルーツ栽培品種へのアクセスを解放

赤肉系キウイフルーツに青信号

つるを枯らすキウイフルーツかきよう病 (*Pseudomonas syringae* pv. *actinidae* (略称Psa)) が2010年にニュージーランドの北島に侵入したことは、北島のキウイフルーツ産業に壊滅的な影響を及ぼし、損失は約10億ドルと推定される。これを受けて、病気が発生している北島と南島の間でキウイフルーツの植物体の移動が制限された。

これらの規制は南島がPsaを回避するのに役立っているが、南島の果樹園は、北島で開発され、北島の生産者にリリースされた新しいキウイフルーツ栽培品種にアクセスできないことを意味した。これには、ゼスプリと植物・食品研究所(政府機関)による共同育種事業の最新の品種であるルビーレッド(RubyRed™)キウイフルーツが含まれる。

この課題に応じて、同研究所の科学者らは業界と協力し、キウイフルーツの繁殖材料が両島を隔てるクック海峡を渡るための安全な経路を編み出した。このプログラムは3つの段階: 実験室での組織培養、検疫ガラス室施設、隔離圃場から成っている。感染リスクがないことを確認するため、植物は2年以上にわたって同研究所リンカーン支所の閉鎖された環境で、専門家チームにより綿密に監視されている。

このプログラムの結果、ゼスプリの最も新しく商品化された品種は、現在南島の生産者の手に渡っている。同研究所ビジネスマネージャーのイベット・ジョーンズ氏によると、繁殖させた「Zes008」ルビーレッド™はこれまでにネルソン・タスマン地域の約11ヘクタールに植えられており、そこでは生産者が今年初めて新品種の収穫を行うと言う。(以下「」は同氏の発言)

「南島の北端にあるこれらの果樹園がこの新しい品種の栽培対象地の一つとなることは大変喜ばしいことであり、これは業界にとって重要な節目である。この経路は、現在開発中の将来のグリーンキウイフルーツ品種など、将来的には他の品種にも使用されることを期待している。」

Psaに感染していない素材の導入経路は、生産者に平等な機会をもたらすだけでなく、南島のモトゥエカとクライドにあるキウイフルーツ育種センターの施設で実施されている科学的な取り組みもサポートする。このことは、気候変動によって起こりうる生産適地の移動に関連して特に重要である。

「我々は、気候が変化する中でキウイフルーツ生産の未来がどうなるかについて、一歩先を考えている。そのため、当研究所のキウイフルーツ育種プログラムは、(北島)北部のケリケリからセントラルオタゴ地域(南島南部)のクライドにまで展開しており、対照的な環境条件下で作物がどのように育つかを見ることができる。」